—広　告—

KIT
キャンパス
レポート㉕

文・出島二郎
マーケティングプランナー

学部一年から研究活動に参加。推算式をつくるのが楽しくて。

濵本 佑典（はまもと　ゆうすけ）
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士後期課程一年
香川県立小豆島高等学校出身

就職に強いことで知られる金沢工大では、修士課程を経て企業に入る学生が増えてきた。しかし博士過程となるとまだ少ない。濵本さんは航空システム工学科に入学当初から修士を目指し、さらに博士へと進学。航空機産業は世界との競争で、修士だけではだめだと考えるようになったからだ。

「最初は博士は頭のいい人が進学するものだと思い、ぼくが行くのはおかしいだろうと。でも赤坂先生は、ヤル気がある人しか続かないからと言ってくれて。それに共同研究をしているＪＡＸＡの田辺先生が客員教授として着任され、この環境で博士に行かなくてどうするんやと。二人の先生がぼくを押し上げてくれました。」

指導する赤坂剛史准教授の専門は飛行力学・飛行制御・空気力学・小型無人飛行機・ドローンなど。田辺安忠客員教授の専門は流体力学・回転翼航空機・数値解析・無人航空機で、回転翼研究の第一人者である。田辺先生は赤坂先生の川田工業時代の上司でもあった。

「もともと飛行機の自律制御に興味があり、学部一年から赤坂先生を訪ね、研究活動に参加させてもらっていました。でも先輩の実験を見ていて、地道な基礎研究でも認められる世界なんだと、現象から数式をつくる研究へ。修士論文はコンパウンドヘリの『高前進率における翼とロータの翼配置と空力干渉の調査』。これからはコンパウンドヘリの運動をテーマにしようと思っています。」

シャイで言葉を選びながらゆっくり話す濵本さんだが、自分の意志には正直に動く強さを持っている。学部では、三年間で計画的に他の学科の単位を取得できるサブメジャー制度を利用して、情報分野の科目を履修した。研究では、ＪＡＸＡに出向いたりメールを何回も繰り返して指導を仰いだ。四年次にはヘリコプタの国際学会に参加し、苦手としていた英語での発表に挑んだ。そういう姿勢が先生方を動かしたにちがいない。

「どの研究室も、学生が先生に自由に意見を述べることができる雰囲気があり、質問にも行きやすい。だから、わからないままにしないという習慣がつきます。今後は、博士の修了要件である査読つきの論文二本をしっかり成し遂げること、後輩を指導する中で人間的に成長することが目標です。」

濵本さんは、二人の恩師の元で厳しい道を歩き始めた。それは金沢工大の建学綱領の一つ、人間形成にほかならないのである。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七-一
電話番号（〇七六）二四八-一〇〇